



ヤマパラ新聞

山形県障がい者スポーツ協会

山形県障がい者スポーツ協会だより

〒990-2231 山形県山形市大字大森385番地 山形県身体障害者福祉会館(山形県リハビリセンター)内

[TEL・FAX] 023-686-4084 [メールアドレス] info@yamagata-adapted.jp [URL] http://www.yamagata-adapted.jp/



パラテコンドー
太田 渉子 選手



競泳
齋藤 元希 選手



競泳
東海林 大 選手

シットティングバレーボール
竹井 幸智恵 選手



写真提供/山形新聞社

東京2020からつなごう想いを

GO! Para-Sports



山形県障がい者スポーツ協会
常務理事

黒沼 祐蔵

「スポーツの力」

日差しの明るさに春の気配を感じる季節になりましたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

昨年は、新型コロナウイルス禍で初の1年延期となった2020東京パラリンピックが成功裏に幕を閉じました。世界から集まったパラアスリートが躍動し、障がいの有無を超えて違いを認め合い、共に生きる社会の実現への機運を高める大会になったと思います。1964年東京大会(58年前)は、障がい者への差別や偏見が根強かった当時の日本にパラスポーツの種をまいたと言われております。それを受け継ぎ、今大会は「共生社会」の理念をしっかりと根付かせることができたと思います。

また、本年2月には中国の北京において、冬の障がい者スポーツの祭典冬季パラリンピックが開催されます。選手の活躍を皆様と共に応援したいと思います。

話は変わりますが、大リーグ・エンゼルスの大谷翔平選手が昨季の公式戦を終え、シーズンを通して投手と打者の「二刀流」で常識を覆す記録を残し、多くの人の記憶に深く刻まれる活躍を見せてくれました。プレーと共に印象的だったのは、ベンチやグラウンドに落ちているゴミをさりげなく拾う姿やコロナ感染の収束が見えず、閉塞感に押しつぶされそうになった時、「大谷選手のプレーや笑顔を見るのが支え」と話すファンも多かったと思います。

さて、パラリンピックの精神であります「失ったものを数えるな、残されたものを最大限に生かせ」この言葉を胸に本県から出場された競泳競技の東海林大選手や齋藤元希選手・テコンドー競技の太田渉子選手・シットイングバレーボール競技の竹井幸智恵選手の4名が持てる力を存分に発揮され、県民に夢と感動、勇気と誇りを与えてくれました。選手の皆さんのさらなるご活躍を心から期待しております。

障がい者への差別や偏見をなくすため、スポーツの力を通じて人々の意識や社会の変革を促し、そのメッセージを東京パラリンピック開催地の日本から世界へ力強く発信されたと思います。日本にもいまだ偏見や差別は存在します。その克服に向けた不断の努力こそが、共生社会実現のメッセージ発信国としての責任を果たしたことに繋がると思います。

これからも、障がい者スポーツの将来を見据えながら、山形県・各市町村・関係団体・競技団体の方々と連携し、障がいのある人が「いつでも・どこでも・いつまでも」生涯を通して身近なところでスポーツができるような環境の醸成のために、事業を実施してまいります。今後とも変わらぬご支援ご協力を心からお願い申し上げます。

令和3年度 第20回山形県障がい者スポーツ大会開催

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、県大会を開催できませんでした。今年度は、感染症対策を万全に施し開催いたしました。

このたびの県大会は、参加資格を全国大会への参加を希望する選手とし、例年とは異なる募集での開催となりました。

また、選手の方々には、コロナ対策として大会までの2週間の体調管理表を提出していただくなど、競技以外に気を遣うところもありましたが、各競技に参加した選手の皆さんは、全国大会を目指し、自分の持てる力を存分に発揮しておりました。

コロナ禍の中、選手・競技団体の皆様の細心の注意と多大なるご協力のお陰で無事に大会を終えることができました。



感染症対策をしっかり行い大会を実施しました



第21回全国障害者 スポーツ大会 「三重とこわか大会」 の中止

三重とこわか大会は、令和3年10月23日から25日までの3日間で開催が予定されておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、残念ながら中止となりました。山形県選手団は、「今年こそは!」と全国大会に向けて合宿を行ってまいりましたが、思いが通じませんでした。

全国大会は、第19回大会から3年連続中止(鹿児島大会は延期)となりましたが、来年は、通常通り開催できることを願っております。

講習会及び練習会を開催

令和3年11月28日(日)、「令和3年度全国障害者スポーツ大会」の陸上競技に出場を予定していた選手を対象に山形県総合運動公園で講習会及び練習会を開催いたしました。

午前の講習会は、障がい者スポーツトレーナーの武田正幸氏より「ウォーミングアップと自宅のできるトレーニング」の理論と実技をご指導いただきました。午後からは、グラウンドに移動し、トラックとフィールドに分かれ、それぞれ練習を行い、練習の最後に記録会を実施しました。殆どの選手が久しぶりのグラウンドでの練習ということもあり、自己記録を更新した選手は少ない状況でしたが、みんなで集まり充実した練習を行えたことに満足した様子が窺えました。

また、練習後は、パラアスリートの地域貢献活動として、練習を行った県総合運動公園内の清掃も行いました。

参加された皆さんには、このたび講習会でご指導いただいたことを継続し、次年度の県大会では活躍してくれるものと期待しております。



～東京2020パラリンピ

新型コロナウイルス感染症の影響により、一時は開催すら危ぶまれましたが、1年の延期を経て、令和3年8月24日から9月5日まで、13日間に亘り東京パラリンピックは開催されました。大会には、難民選手団を含む162の国と地域から約4,400名の選手が東京へ集結し、様々な障がいのあるアスリートが限界に挑み、それぞれ輝く姿を見せてくれました。➤

東京パラリンピックに
出場しての感想を
4名の選手よりいただきました。

競泳 東海林 大選手

1年延期となりモチベーションを保つことはとても大変でしたが、東京パラリンピックに出場できたことは私の誇りです。

大会期間中とてつもないプレッシャーに襲われ、あまり眠ることができませんでした。100mバタフライとMIXリレーで調子が上がらず「このまま終わってしまうのか…」と不安な気持ちに押しつぶされそうでした。それでも、最終レースの200m個人メドレー決勝では、無心に自分の泳ぎだけに集中して最後まで諦めない泳ぎができました。結果は4位でしたが、悔いはありません。もしも、自分の泳ぐ姿から勇気や希望を感じてもらえたとすればとても嬉しいです。これまで温かく支えて頂いたことに感謝します。ありがとうございました。



県民の皆様をはじめ関係者の皆様、多大なるご支援、ご声援をありがとうございました。多くの方々にパラスポーツに触れて頂けたことが今大会で僕の大きな成果の一つとなりました。初めてのパラリンピック出場で、個人三種目の記録を更新するなど調子が良かったのですが、結果としては世界との差を感じた大会となりました。

また、観客席から見たレースは、無観客である状況に悔しさを覚えるばかりで、パラリンピックの本来の姿を僕自身も見なかったですし、多くの方々にもご覧いただきたかったです。そして、表彰式の際には、僕もあの場所に立ちたいと、強く思いました。

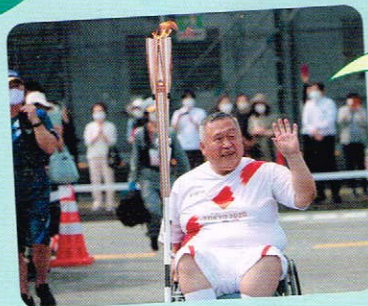
僕は、パリ大会に向けてこの気持ちを大切にしながら、目標でもあるメダルを山形の皆様にもお見せできるように頑張っ続けてまいりますので、引き続きよろしくお願い致します。



競泳 齋藤 元希選手

東京パラリンピックが
開催されるまでの間
県内でも大会に向けた
イベントが開催されました

2020東京オリンピック 聖火ランナー 蜂谷 眞和氏



東京2020オリンピックの山形県の聖火リレーは、令和3年6月6日(日)と6月7日(月)の2日間で開催され、35市町村のうち、18市町で聖火が通りました。

令和3年6月7日(月)、山形県の2日目は、天童市の道の駅天童温泉ステージを出発地として、7市1町10区間で行われました。私は、天童市立中部小学校児童のサポートランナーと共に、天童市区間最終ランナーとして走らせていただきました。

新型コロナウイルス感染症の拡大により1年延期となっていました。この聖火の灯がオリンピック後のパラリンピックへの架け橋になってくれたらとの想いもありました。そして、オリンピック・パラリンピックでの日本人選手の活躍は、コロナで沈みがちな気持ちを奮い立たせていただき、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。有り難うございました。

令和3年度アスリート支援事業

パラリンピックやデフリンピックを目指している、県内出身・在住者のパラアスリートを支援するアスリート支援事業に、今年度は山形県から8名が強化指定選手に選ばれました。

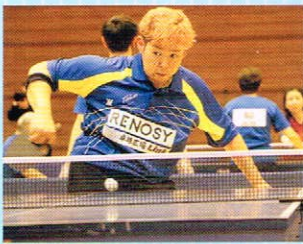
2022年5月にブラジルでデフリンピックが開催されます。前回大会から特に強化を図ってきたバタフライで自己ベストを更新し、メダルを獲得できるように力を尽くしたいと思います。応援よろしくお願いします。



齋藤 京香 選手

【強化指定選手一覧】

氏 名	競 技	障がい	所 属
東海林大 選手	競 泳	知的	ベル宮町
齋藤元希 選手	競 泳	身体	国土舘大学大学院
太田渉子 選手	パラテコンドー	身体	ソフトバンク株式会社
齋藤京香 選手	競 泳	聴覚	山梨学院大学
伊藤朝洸 選手	バドミントン	身体	松田病院
片見公亮 選手	卓 球	身体	株式会社 GA technologies
佐藤博輝 選手	競 泳	身体	
坂本 圭 選手	ボウリング	聴覚	山形県聴覚障害者協会



片見公亮 選手



伊藤朝洸 選手



佐藤博輝 選手



坂本 圭 選手

協会車両を更新していただきました

昨年9月17日に、山形トヨタ自動車株式会社代表取締役社長鈴木吉徳様より、当協会へ貸与いただいております車両を新しい車両に更新していただきました。

当協会では、更新していただきました貸与車両で引き続き、県内のパラスポーツ選手の競技力向上支援をはじめ、県内全域を対象とする障がい者スポーツの普及・啓発活動に有効に使用させていただき、山形トヨタ様のPRを含めて皆様のご期待にお応えして参りたいと思います。

山形トヨタ自動車株式会社様、障がい者スポーツへのご理解とご協力を誠にありがとうございます。



▲右から山形トヨタ自動車株式会社代表取締役社長鈴木吉徳様、黒沼常務理事、佐藤事務局長。更新いただいた車両は、当協会シンボルカラーのブルーのシエンタになりました。

山形県障害者スポーツ指導者協議会の活動

令和3年12月19日に障がい者スポーツ指導員を対象とした研修会を行いました。内容は「運動再開時の注意点」と「救急・応急対応」についてです。コロナ禍によってスポーツ活動が制限され、大会の中止が相次いでおります。また、選手たちは感染対策によって、練習やトレーニングの機会が減ってしまいました。そのため体力の低下や関節の硬さなどがみられ、運動再開時に大きなケガや事故にあってしまう可能性があります。そこで、改めて安全な運動の再開方法やウォーミングアップの方法、救急時の対応方法について、実技を交えながら研修を行いました。今後も感染状況を注視しながら、安全で安心なスポーツ活動の再開を関係各位と目指してまいります。

